

地域の方のコメント

✎ 企業コラボサロンに初めて参加しました。高齢者の集まりと出向きましたが、「おせっカフェ」で、ピチピチと若い社員様が笑顔で迎えて下さいました。一瞬、戸惑いました。老若男女が地域活動の取り組みについてのトークで、会場は一体となり、「力まず、誰もが自由に参加する」の体験談も聞き、地域を思う熱意に感動しました。このような活動を通し、一人一人が声を掛け合い、元気なまちづくりが出来る事を願っています。



河本 恭子

✎ 私は灘に生まれ育ち、今も住み続けています。その灘に、地域の住民とともにまちづくり活動を推進する企業の存在を知りました。このたびサロンに参加し、従業員の方と一緒に過ごしていただくなか、その若い感性に素晴らしい社風を感じました。灘は古き良きものを大切にしている街ですが、この新しい発想は、国際性豊かな灘の再生に繋がっていくと思います。地域の良さを再確認する貴重な時間を過ごし、地元愛を深めることができました。



岡田 清美

✎ 神戸に住みながら、郷里（丹波市春日町）の活性化に関わっているので、今回のテーマに惹かれて参加しました。地域の活性化の主演は「地元の人」ですが、地元の人同士が地域課題について、話し合う場所や機会があまりないのが実情です。その点で「企業コラボサロン」は、お互いが役割分担をして地元を盛り上げて行く、素晴らしい効果的なまちづくりの「仕掛け」だと感じました。企業の地域貢献活動のモデルケースとして期待しています。



上田 正三

社員さんのコメント

✎ 今回地元で活躍されている方のお話を伺い、地元の新しい魅力の発見となりました。地域の方との意見交換を通じて、地元のこと、地域貢献についてじっくりと考える良い機会を得ることができました。今後もコラボサロンの場を通して、地元の方との繋がりをより深めていけたらと思います。



原 天子

✎ 面白さを追求したまちあそびを通じて、地域交流の場を増やしたり、灘区をもっと多くの人に知ってもらえるだけでなく、ただ楽しむ事が自然にまちづくりに繋がるのだと実感しました。また、20年近く灘区に住んでいますが、そういった活動をなさっている事を知らなかったので、地域の方々が活動を知る機会がもっと増えれば良いなと思いました。



成瀬 飛鳥

企画者のコメント

✎ 企業コラボサロンとしてスタートして2年。サロンを続けることで地域の方と神輝興産スタッフ双方の顔が年々見えるようになりました。本業とのバランスや実施する意義について社内から意見が出るようになり、劇的に変化・多様化する時代のなか、社業以外に多焦点に考える良き機会になりました。これからも本業だけでは気づきにくい価値観などについて考える場づくりを大切に、地元企業として「持続可能」をキーワードに地域のお役に立ち、地域のインフラとなります。



尾花 弘教(神輝興産代表取締役)

✎ 尾花社長とご相談しながら設定した今年度のテーマは「SDGs」。「誰ひとり取り残さない」という大目標のもと、国連が2030年までの17のゴールを制定していますが、なかなか親近感がわかないというも実情…。そこで、身近にSDGsを感じていただくため、ゲームやワークショップ形式を中心に、社員さんと地域住民の方とともに学ぶ場としてすすめてきました。そのプロセスは、まさにゴール17の「パートナーシップで目標を達成する」そのもの!? SDGsをツールとして、企業と地域のつながりが深まったようであればうれしく思います。



飛田 敦子(生きがい活動ステーションマネージャー)

(有)神輝興産について

老朽化した構造物(橋やトンネル)の点検・調査・診断を行っている会社です。神輝興産の由来は『神戸で輝く』であり、地域とのつながりを大切にしています。年齢も性別も関係なく“食”を通じて交流し、人をつなぐ場所を作りたいと考え、会社の倉庫を改装し『おせっカフェ』という居場所の運営もしています。

本社 〒657-0027 神戸市灘区永手町1-4-16アルパー六甲2階
Tel.078-200-6724 Fax.078-200-6824
Web: <https://www.shinki-ktr.co.jp/>
おせっカフェ 〒657-0027 神戸市灘区永手町2-1-194
Tel.078-940-2048(ランチ予約)



業務の様子



おせっカフェ

生きがい活動ステーションについて

“地域の中で「生きがい」と「役割」を見つけませんか?”を合言葉に、公益財団法人神戸いきいき勤労財団と認定NPO法人コミュニティ・サポートセンター神戸が協働で運営しています。2014年6月に神戸市立六甲道勤労市民センター内に開設されて以来、講座やサロンを積極的に開催し、これまでに多くの方が地域活動の担い手となっています。

〒657-0038 神戸市灘区深田町4-1-39 メイン六甲4階
神戸市立六甲道勤労市民センター内
Tel.078-857-3022 Fax.078-857-3023 ✉ ikigai@cskobe.com
Facebook: <https://www.facebook.com/ikigairokko>
開館時間 9:30~17:00(木・日・祝はお休み)



サロンの様子



居場所講座

2019年度 神輝興産×生きがい活動ステーション

企業コラボサロン報告書



(有) 神輝興産と生きがい活動ステーションが企画し、地域の課題についてともに学習し、交流する「企業コラボサロン」。

昨 年度に引き続き、2年目の実施となりました。今年度のテーマは「身近なSDGsに触れる3日間」。

(国) 連が定めた持続可能な開発目標(SDGs)について、シミュレーションゲームや地域住民とのディスカッションし、特にゴール11と17について理解を深めました。



主催：有限会社神輝興産

共催：生きがい活動ステーション
(公益財団法人神戸いきいき勤労財団/認定NPO法人コミュニティ・サポートセンター神戸)

SDGs

SDGsとは?

2015年に国連総会において、「持続可能な開発目標(Sustainable Development Goals: SDGs)」が、採択されました。これは2030年までに17のゴールを設定し、世界のすべての人々が、安全で暮らしやすい居住環境や基本的なサービスを受けられることを目指すものです。国連や政府の力だけで達成できるものではなく、また地域においても、企業や住民や団体が問題意識を共有しながら、課題解決に向けて連携することが必要とされています。



第1回 カードゲームで体験するSDGs

6/14(金) こし きみえ
 ファシリテーター: 越 希美江さん(BEYOND WORDS/2030SDGs認定ファシリテーター)

第1回は楽しみながらSDGsを学べるカードゲームを実施しました。このゲームは「大いなる富」「悠々自適」「環境保護の闘士」などの役割が振られ、それぞれのミッションを達成するためにチームで様々なプロジェクトを遂行していくというものです。しかしその際、同時に「経済」「環境」「社会」のバランスを考えなければ、自身のプロジェクトが無事に遂行できたとしても、地球がままならなくなる、ということも…。どのようなバランスで持続可能な社会を構築していけばいいのか、楽しみながらSDGsの概念に触れることができた1日でした。



第2回 企業の社会貢献とSDGs

7/1(月) ひだ あつこ
 ファシリテーター: 飛田 敦子(認定NPO法人コミュニティ・サポートセンター神戸)

第2回のサロンでは、企業が社会貢献活動やSDGsに取り組む意義について、ミニ講座とグループディスカッションで考えました。特に盛り上がったのが、神輝興産で現在行っている社会貢献活動について「いいなと思うところ」と「ちょっとモヤッとするところ」を出し合うディスカッション。会社の中での位置付けや課題意識などを共有する時間となりました。また、この企業コラボサロンのとりくみ自体がゴール17「パートナーシップで目標を達成しよう」につながるのでは、という意見もでした。



● 社員さんアンケートより ●

自社の社会貢献活動について…

いいなと思うところ

- 私自身の経験の場にもなっている・視野が広がる
- 会社以外の人と交流できる機会が得られる
- 思いやりや他者を気遣う気持ちが芽生えた
- 新しい事業・アイデアにつながるかも
- 地域の方が神輝興産のことを広めてくれる
- 神輝興産が窮地に立たされたときに、地域の人に助けられるかも
- 他の会社に勤める友人に話すと感心されたり、驚かされたりする

ちょっとモヤッとするところ

- 業務が忙しいときは余裕がない
- 本業とのバランスが難しい
- どんな意義があって行うのか、もうすこしちゃんと知りたい
- 社員間に温度差がある
- どの程度地域に対して貢献できているかわからない

SDGsゴール11「住み続けられるまちづくりを」について考える

第3回
9/2(月)

第3回は、「住み続けられるまち」をテーマに二人のゲストをお招きし、実際の取り組みから、自分たちができることについて考えました。

Aコース「まちづくり」より「まちあそび」

うつみけいいち
 ゲスト 慈 憲一さん(六甲技研/naddist)

大学時代から灘を離れそのまま就職、震災を機に灘に戻られ「まちづくり」に関わられた慈さん。その時の経験から、「まちづくり」よりも「まちあそび」を大切に、灘愛にあふれた様々な活動を展開されています。「東神戸マラソン」「摩耶山リュックサックマーケット」「灘印良品」などの仕掛け人でもあります。「まずは自分が楽しむこと」「まちをあらゆる方法で使いたおすこと(違反にならない範囲で!)」が、街に愛着を持つきっかけとなり、「住み続けられるまちづくり」につながるのでは、というお話でした。



慈さんからのコメント

「まちづくり」という言葉は上から目線なのであまり使いたくないので「まちあそび」の事例をご紹介させていただきました。まずやっている本人が楽しく、それがまわりに伝わっていくこと、自分たちができる範囲で取り組んでいくことが伝わっていれば幸いです。そういう意味では「おせっかフェ」のような空間があるんな地域にできればいいなと思いました。それと社員の方々と尾花社長が友達のようにお話しされていたのがとても印象的でした。



Bコース「世界と灘をつなぐゲストハウス」

バクチョロン MAYA
 ゲスト 朴 徹雄さん(ゲストハウス萬家オーナー)

地域密着型ゲストハウスのオーナーとしてとして世界各地から宿泊客と地元をつなげるプログラムを多数展開中の朴さん。ゲストハウスは宿泊機能のみに限定し、飲食や入浴などはできるだけ地元の居酒屋や銭湯をご案内すること。「水道筋つまみぐいツアー」や「摩耶山ハングル講座」など、地元愛あふれる様々なイベントを企画しています。共存共栄のマインドを大切に、活かし・活かされる関係性を構築することが「住み続けられるまち」につながるのでは、という示唆に富んだゲストトークでした。



朴さんからのコメント

この度は「住み続けられるまちづくりを考える」をテーマに今自分が取り組んでいるまちでの活動を紹介させていただきました。私は「まちづくりをしよう」とか「持続可能な社会をつくろう」という大きい目標を抱えて活動しているわけではありません。ただ、地域や社会に少しでも役立つという気持ちがあれば、個人でできる範囲で楽しくやる、それが自然に地域や社会にも良い影響を与えるようになるものだと思います。地元の企業さんが中心となり、持続可能な社会を目標に地元の方も社員も一緒になって学び合うコラボサロンの取り組みをみて私自身もとても刺激になりました。また参加者としても参加させていただきたいです。

